



## 札幌医科大学図書館システム小史

### No. 4

Nov. 2012

附属総合情報センター

主任司書 今野 穂

当センターは、本年10月、図書館システムの更新を行いました。新図書館システムの概要は、次ページ以降のとおりですが、ホームページが一新され、自宅や派遣先から学内コンテンツを利用するためのリモート・アクセス環境が大きく改善されました。また、来年早々には、冊子体の蔵書はもとより、本学が購読する電子ブックや電子ジャーナルを一括して検索することができるディスカバリー・サービスの公開を予定しています。

本学図書館システムは、1997年10月の初導入も含め、都合4回の整備を行っていますが、仕様そのものは、一貫した内容となっています。本学図書館は、年間を通し、24時間開館を行い、また、地域医療従事者に対して文献複写などの学術情報提供サービスを実施していることから、本学図書館システムは、図書館職員不在時の図書館利用や遠隔地からの学術情報入手を容易に行えるよう都度検討が行われ、その時代の最先端の情報技術(IT)を採用してきました。

1997年10月の初導入では、本学蔵書情報の電子化と本学に所蔵しない資料の複写依頼のワンストップ化に取り組みました。現在の学部生にとっては信じられないかもしれませんが、1997年以前の蔵書検索は、カセットテープ大のカードに書名や著者名を記載し、ABC順に並べられたカード目録を1枚ずつめくり、探していました(右写真)。カード枚数はゆうに20万枚を超えていました。また、本学で所蔵しない資料は、手書き申込書に記入し、図書館経由で他大学からコピーを郵送により取り寄せていました。ご周知のとおり、システム化により本学に所蔵しない資料の手配は、PubMedなどの文献データベースの検索結果から直接行えるようになりました。文献複写依頼のワンストップ化は、国内初の



試みであり、その業績に対し、2000年5月、10年振りとなる第30回日本医学図書館協会賞を受賞しました。

2回目の整備となる2002年には、本格的な電子ジャーナル整備に備え、文献データベース検索結果と電子ジャーナルを連動させる「リンクリソルバ」と呼ばれるシステムを国内で初めて導入し、同年12月には、アジア初、世界で9番目となる米国国立医学図書館作成の医学文献データベースPubMedとの機能連携を実現しました。また、3回目の整備となる2007年には、自宅や派遣先など学外から文献データベースや電子ジャーナルを利用する際のアクセシビリティの向上を目的に、「プロキシ(代理)サーバ」の整備をはかりました。

本学図書館システムが提供するこれらの機能は、今日、利用者にとっては、当然の機能として活用されていますが、そのこと自体、本学図書館システムが目的とする究極の仕様と考えています。職員不在時に図書館を利用したり、遠隔地から学術情報入手する際に、手順を確認する必要がなく、直感的に操作できるシステムを今後も模索していきたいと考えています。当センター職員一同、ご利用されるみなさまのご意見、ご感想を心よりお待ちしております。